

令和4年10月23日

若者環境フォーラム2022

## 午後3時開会

○司会（遠藤） 定刻になりましたので、ただいまより「若者環境フォーラム 2022」をスタートします。

本日は、御参加いただきありがとうございます。本日の司会を務めます、環境サポーターの遠藤です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

まずは注意事項を説明させていただきます。本フォーラム内容の録音、録画、撮影、画面のスクリーンショットは禁止とさせていただきますのでご了承ください。また、Zoomで参加の皆さんは、登壇者の発表に対する質問や環境への影響を考えて既に実施していること、これから実施しようと思うこと、2030年や2050年には世界はこうなっているべきだと思うことなどの意見をQ&A機能を利用して書き込んでください。いただいた御意見、御質問は、できる限りフォーラム中でお答えしたり、参加者の皆様と共有させていただきます。

それでは、開会に当たりまして、世田谷区の保坂区長よりオープニングメッセージをいただいています。スケジュールの都合で事前に録画したものとなりますが、どうぞご覧ください。

### 〔動画再生〕

皆さん、こんにちは。世田谷区長の保坂展人です。今日は、若者環境フォーラムに御参加いただきましてありがとうございました。

この環境フォーラムは2回目となります。去年は、オンラインで高校生が若者のグループが気候危機の問題になんとか動かなければ、できることはないだろうかと身の回りで、例えばエシカル消費について考えたり、また環境リサイクルに関心をもっと持ってもらうとか様々な提案がありました。

この環境の問題、特に気候危機はますますこの1年激しく悪い状況になっていますよね。日本でも35度を超える暑さがずっと続きました。ヨーロッパ、アメリカでも40度を超える信じられない暑さ、また巨大台風が次々と発生しています。低気圧による大雨、この8月、9月、10月と集中豪雨、台風、日本でも各地で水害が起きました。

このような、いわば気候の異常事態、災害の激甚化に対して、世田谷区では令和2年に「世田谷区気候非常事態宣言」をしました。この宣言の中で、ただ宣言するだけではなくて行動を起こしていこうと呼び掛けています。その行動も子ども若者、今日、参加してレポートしていただける皆さんの活動が大事なんだ、区としてはそういう若者たちの発言

ができるプラットフォームを準備し後押しをしていく、そんな役割を果たしていきたい  
と思います。

今日、これから発表される皆さん頑張ってください。ぜひ他のグループの発表からも  
ヒントを得ていただきたいと思います。第2回目若者環境フォーラム、スタートです。

○司会 保坂区長、ありがとうございました。

それでは、フォーラムの本題に入ってまいります。まずは、話題提供の1つ目とし  
て、環境サポーターより気候危機問題について少しばかりお話をさせていただきます。

○環境サポーター 皆さん、こんにちは。環境サポーターの上原と、秦です。

まず、私からは環境サポーターの紹介をさせていただきます。世田谷区では、気候変  
動問題の解決に向けて若者たちの参加と協働が大切だと考え、大学生などのボランティア  
で構成される環境サポーターの取組みを今年度から始めました。現在、17名が登録して  
います。主な活動は小学校に出向き環境出前授業を行うことです。10月から始まったの  
ですが、私たちが環境問題や身近な問題を取り上げ小学生と一緒に学ぶという内容になっ  
ています。私も2週間ほど前に初めて小学校で授業をしました。グループワークの際に  
は、自由な発想で新しい発電の仕方を生徒たちはみんなで楽しく話し合っていて、とても  
驚きました。また、本日の若者環境フォーラムや12月に実施する若者環境デーという小  
学生などを対象にしたワークショップなどのイベントもお手伝いしたり、主体となって活  
動しています。

今日は、私たちに身近な食から環境問題にフォーカスしてみようと思います。

まず、食にまつわる問題を考えたときに、皆さんはどのような考えを思いつきます  
か。環境負荷や食品ロスが挙げられると思います。その他にも、実は農薬の使用、飢餓、  
孤食など多くの社会問題が挙げられます。ここで、食を考えるということは、私たちの社  
会や環境について考えるということになるのではないのでしょうか。

皆さんはパーム油という名前を聞いたことがありますか。アブラヤシという木の実の  
油です。このアブラヤシから採れる油は、私たちの日常生活と密接に関係しており、世界  
でも最も多く使われている植物油とされています。アブラヤシは高温な熱帯地域でしか  
生産ができないため、極地集中的に熱帯雨林が失われる直接的な原因となっています。

パーム油は、別名見えない油と呼ばれています。身近な例を挙げると、スナック菓  
子、インスタント麺、マーガリン、アイスクリームなどの加工食品、洗剤、石鹼、化粧  
品、医療品、日用品など私たちの日常で使用するあらゆるものに幅広く使われています。

安価に仕入れられ何にでも使用できるパーム油は、便利でとても汎用性の高い油です。現在では、この油ほど生産性の高い植物油はありません。実際に1ヘクタールあたりの採取可能な量で比較してみると、菜種油などの野菜から採れる油は0.59トンしか採れない中で、パーム油は3.8トンの約6倍の量が採取されています。他の作物から、今のパーム油に匹敵する量の油を生産しようとする、現在の農園よりも広大な土地が必要となり更なる森林破壊を加速させる要因となる恐れがあるのです。

この油は、日本で1人あたり年間4キロ以上も消費されており、野菜油に次いで二番目に多く輸入されている油とも呼ばれています。2002年から2017年の15年間で約2.4倍に生産量が増加しました。今後も需要は増え続け、生産量が増加し続けることが予想されています。

人口が世界的に増加している中で、私たち人間は今よりもより豊かな暮らしをするために、消費する加工食品、使用する日用品が増えています。私たちが物を消費する裏で熱帯林は開拓され続けています。そのため、多くの野生動物の住処や食べ物、命が奪われ、多種多様な野生動物が絶滅に瀕しているのです。実際に、インドネシアやマレーシア、ブルネイなどの熱帯のみに生息するオランウータンは、100年間で約80%も減少しています。

人の影響としては、森を利用している周囲の地域の人々や森の中に暮らす先住民の人々が住む場所を失うこともあります。また、アブラヤシ農園で働く人たちに関わる児童労働問題や強制労働も問題となっており、今後もより問題が深刻化していくでしょう。

次に秦さんからは、SDGsと食についてお話をさせていただきます。

ここからは、SDGsと食という観点から、より私たちに身近なトピックについて御紹介したいと思います。皆さんは、精進料理をご存知ですか。精進料理とは、近年注目を集めているヴィーガンの先輩で、肉や魚などの動物性食品を使用しない仏教と結びついた食事のことです。

実は、肉魚の摂取を控えることはSDGsに大きく貢献します。例えば、地球温暖化問題の主な原因は、二酸化炭素酸、亜酸化窒素、メタンガスの3つがあります。畜産業が多くの温室効果ガスを排出することをご存知でしたか。亜酸化窒素の発生要因は、ご覧の通り農業が多く占めています。そして、その農業の中でも家畜の糞や堆肥が主要な原因となっているのです。

この亜酸化窒素の温室効果は、何と二酸化炭素の 300 倍以上にもなるそうです。さらに、驚くべきことにお肉を食べ過ぎるということは、飢餓問題、水不足問題、森林伐採にもつながっています。例えば、2020 年は 23 億人以上が、十分な食料を入手できませんでした。これは、世界人口の 30%に相当します。もし、家畜のための飼料や水を人間に回すことができるのなら、世界中の飢餓で苦しむ人たちを救うことができるとも言われているんです。

そして、精進料理は水不足問題の解決にも貢献します。2030 年には、水需要に対して水資源が 40%不足すると言われており、水資源の管理は持続可能な発展のために重要な課題となっているのです。食料の中でも、肉は畜産の過程で大量の水を必要とします。そこで、1 食分の食事で考えてみましょう。コロッケとご飯の 1 食分を比べると、動物性食品なしのかぼちゃコロッケは牛肉を使ったコロッケのおよそ 1/5 までの水の量を減らせます。このように動物性食品の摂取を減らすことは、様々な環境問題、社会問題改善のキーとなると考えられています。

最後に、私が昨年 1 年間参加させていただいたリーダーズアカデミー、コクチャレという昭和女子大学の学内プロジェクトの活動について少しお話ししたいと思います。

私たちのチームは、「SDGs × 食」をテーマに可能性に満ちた精進料理を広める活動をしていました。活動内容としては、このすばらしい日本食文化である精進料理を広めるべく、Daily 精進という名で皆さんにとってこの精進料理をより身近に感じてもらい、美味しく、楽しく、無理なく環境貢献できるということをインスタグラムで発信していました。Daily 精進では、女子大生が作る簡単な精進料理のレシピ、楽しく学べる豆知識について、日本語と英語で投稿しています。若者の目に入りやすいようカラフルでおしゃれなレシピを作ったり、手描きオリジナルイラストを使用したりなどの工夫をしています。

ここで、だからといって肉などの動物性食品を一切口にしないでくださいということをお強要しているのではなく、SDGs の達成に向け学生の立場を活かして貢献するという活動を皆さんにも、ぜひ考えて欲しいのです。

さて、今までの話を聞いて、食にまつわる様々な問題を解決していく上で私たちにできることは何でしょうか。まず、最も大切なことは様々なことを知って、日々環境に配慮した行動を意識し、その上で得た知識などを周りに共有して広めていくことだと思います。また、新しいものを外から取り入れることもすてきですが、精進料理のように実はま

だあまり注目されていない世界に誇れるすばらしい文化が日本にまだたくさんあるのではないのでしょうか。

先ほど上原からも説明があったようにパーム油の生産は、年々右肩上がりになっています。生産は需要がなければ行われたいはずですが、これまでの生活の当たり前を見直し、不必要なものは買わずに減らしていくということも重要なことではないのでしょうか。

このように毎日の生活を意識して変えてみることで、実は私たちの地球環境にとって、大きく影響するということをお話ししてきました。日頃の生活で常にアンテナを張って新しい情報を得ながらも、私たちのかけがえのない地球という環境を協力し合って守り続けていきたいと思っています。

以上で発表は終わります。ご清聴ありがとうございました。

○司会 上原さん、秦さん、身近なところからできる取組みを紹介していただきありがとうございました。

続きまして、話題提供の2つ目として、多摩美術大学の盛田さんより産官学民連携のプロジェクトについて、お話をいただきます。多摩美術大学の盛田さんよろしくお願いたします。

○多摩美術大学 こんにちは。多摩美術大学統合デザイン学科3年の盛田羽菜です。

今回、多摩美術大学の学生が、マクドナルドと世田谷区との課題で取り組んだ、気候変動への取組みについて紹介します。

私たちは、マクドナルドで使用されているトレイマットを通じて、お客様に気候変動について知ってもらい行動を促すデザインを行いました。皆様には、私たちの考えた16のアプローチの中でどれがいいかを選んでいただきたいです。どなたでも参加できるオンライン投票によって最優秀賞、優秀賞が選ばれ、一番票の多かったものが世田谷区内のマクドナルド全店舗にて展開されます。

それでは、16のアプローチを紹介していきます。

緑色のトレイは実はリサイクルされたおもちゃでできていることを伝え、身の回りでリサイクルできるものから見つけてみようと呼びかけます。

SDGsの取組みやマクドナルドで食事をするお客様も取組みの参加者であるとマラソンをモチーフにして伝え、日常生活にもつなげてほしいと呼びかけます。

トレイ上はあくまで食品が主役であるという視点から、表は食品を邪魔せず目に留まるようなデザインで、裏面で商品の何がサステナブルなのかを伝えます。

普段目を向けないトレイマットをハンバーガーの包装紙とすることで、紙の削減と身近なところからSDGsを始められるとその場での実践を通して理解と納得に導きます。

サステナブルラベルがついた商品を選ぶだけで、環境保護に貢献できると呼びかけ選ぶ未来と選ばない未来をイラストで直感的に伝えます。

トレイマットを使い、持ち帰る袋を自分で作ってもらうことで残すことへの意識を持たせ、持ち帰れることを伝えます。

メイド・フォー・ユーという、お客様から御注文を頂いてからバーガー類を調理するというマクドナルドオリジナルのシステムによって食品ロス削減を、ポテトを用いた折れ線グラフで伝えます。

マクドナルドも地球のことを考えているんだとビッグマックをモチーフに具材や容器に関する取組みを紹介し、知ってもらいます。

食品を手にとるとメッセージが読めるようになり、食事をしながらメイド・フォー・ユーの取組みの紹介や食べ残しをしないという意識づくりを促します。

ドナルドの顔を探すことで、身の回りでおもちゃがリサイクルされているものや環境に優しいおもちゃの捨て方を知ってもらいます。

ポテトの最後の一本をメモリで測ることで、食べ残しを防ぐとともに地球と未来のためのミッションで簡単にできる行動を促します。

気候変動がどのくらいのスピードで進行しているかを、インパクトのある文章で危機感を持ってもらい、意識や行動を促します。

私たちが地球のために、まず何をしたらいいかを購入した際に既に完了していることや店内で実行できるものを取り入れたビンゴで伝えます。

キーボードを配置することで、トレイ上でタイピングする親子のコミュニケーションを生み、サステナブルラベルについて一緒に調べてみる第一歩を促します。

トレイマットを破ることで、紙の断面やコーティングの有無が見分けられることを伝え、分別を通して行動のきっかけを作ります。

最後に、サステナブルラベルの認知度が低い現状から、子どもに興味を持ってゲーム感覚で探してもらうことで、マークの存在や形状を認知してもらいます。

以上が16のアプローチの説明になります。

続いて、オンライン投票についてです。オンライン投票は、本日10月23日（日曜日）から11月6日（日曜日）までとなっております。投票のURLはフォーラム終了後、参加者の皆様に送付される予定です。

この課題を通して気候変動の深刻さを知るとともに、今まで知らなかった気候変動への取り組みについても知る機会になりました。トレイマットを活かして、どういったコミュニケーションを生むことができるかを考えて制作しました。16作品、同じ課題ではありますが、それぞれ方向性の異なるアプローチで面白い作品が並んでいます。この投票を通して気候変動を考えるきっかけになったら嬉しいです。ご清聴ありがとうございました。

○司会 多摩美術大学の盛田さん、SDGsとサステナブルのマクドナルドの活動発表していただきありがとうございました。

登壇者に対する質問や感想は随時受け付けていますので、Q&Aのボタンからどしどしお寄せください。

それでは、中学生、高校生、大学生による事例発表とパネルディスカッションに移っていききたいと思います。ここからは、NPO法人新宿環境活動ネット代表理事の飯田貴也さんに進行していただきます。飯田さん、よろしくお願いいたします。

○飯田 よろしくお願いたします。ここから、パネルディスカッションの進行を担当させていただきます飯田といいます。今日は、よろしくお願いいたします。

今、御紹介いただいたように、新宿環境活動ネットという新宿を始め都市部で環境活動を広げたいなということで、そういうNPOでスタッフをしています。振り返ってみると、自分自身もともと環境にすごく興味があってこの仕事をしてるというよりかは、高校1年生のときに生徒会活動を通じて環境に興味をもって活動始めたことがきっかけでした。そこから気づくとそれを仕事にしているっていう感じなので、ぜひ今日御参加の皆さんにも後で振り返ってみたときに、この若者環境フォーラムが何かのきっかけになる、そんなふうになったら嬉しいなと思っています。僕自身もこの後、皆さんと一緒に話を聞けることを楽しみにしています。

簡単ではあるんですが、この後のパネルディスカッションの趣旨と流れを御紹介させていただきます。皆さん、世田谷区で令和2年10月に「世田谷区気候非常事態宣言」というものが発表されたのはご存知でしょうか。2050年までにCO<sub>2</sub>二酸化炭素排出量実質ゼロにすることを目指すような宣言になっています。2050年って言うと、御

参加の皆さんパネラーの皆さん、だいたい何歳ぐらいで何していますかね。30年後だと、なかなか想像できないかもしれないんですが、恐らく、今日御参加頂いている中学生から大学生世代、若者世代の皆さんは30代40代になって、社会の中心社会の主役になっている世代なのかなと思っています。多方面で、いろんな分野で、いろんな立場でご活躍かなと思っています。

この後のパネルディスカッションでは、6団体の中学生から大学生の皆さんに御発表をいただき、現在、どんな活動をしているのかということをお紹介いただいた後、2030年、あるいは2050年どんな社会になっていたらいいのかというような、そんな理想も話し合えたらいいな、ざっくばらんに皆さんと楽しく進めていけたらいいかなと思っています。ぜひパネラーの皆さんは、他の同世代の発表を聞きながら刺激やヒントを受けてもらえたら嬉しいかなと思いますし、傍聴いただいている皆さんは何か一歩踏み出すきっかけにいただけたら嬉しいかなと思っています。ぜひ気軽に楽しく進めていければと思います。

本日の流れをお紹介させていただきます。この後、中学生から大学生まで6団体に事例発表いただきたいと思っています。事例発表が終わりましたら、6団体の皆さんに揃っていただいてフリートーク、皆さんからの質問なども交えながらディスカッション進行していきたいと思っています。前半が事例発表、後半がトークセッションとそんな流れで進めていきたいと思っています。

では、これから事例発表に入っていくんですが、その前に、ぜひ6団体の皆さんに顔を見せていただいて始められればと思っていますので、パネラーの皆さん画面オンにしてくださいませでしょうか。ぱっちり映ってます。もしよかったら、カメラの前で照れくさいかも知れませんが、手を振っていただいて。ありがとうございます。

この後、順番にこちらの6団体の皆さんから、活動を発表いただいて、後半トークセッションで進めていきたいと思っていますので、皆さんよろしくお願ひします。

早速ですが、1団体目の発表に移らせていただきたいと思っています。世田谷区立用賀中学校の御発表になりますので、用賀中学校の皆さん、画面をオンにしてくださいませもよろしいですか。大丈夫そうですかね。では、1団体目になります、用賀中学校の今市さん御発表よろしくお願ひします。

○用賀中学校 用賀中学校では、令和2年度、3年度、4年度とSDGsの研究を行っています。本日は、用賀中学校のSDGsの取組みをお紹介します。

まず、そもそもSDGsとは何か本格的に学ぶことはあまりないため、この機会にSDGsについての新聞を作ったり、フィリピンに留学経験のある先生からフィリピンの貧困の現状について教わったりと、SDGsについて知ることから始めました。

夏の課題の発表会です。各クラスで発表会をし、プレゼンの内容にクラスで得点をつけて、上位10名のプレゼンを学年集会で発表しました。その後に、SDGsの中の目標14海の豊かさを守ろうについての取組みを行いました。

初めに、海の豊かさを守ろうの3つの取組みを御紹介します。かつおぶし削りの体験です。出汁の試飲です。カツオの一本釣りの体験です。

〔動画再生〕

○用賀中学校 次に、目標15陸の豊かさも守ろうでは、西表島のやまねこパトロールの遠隔授業による授業を紹介します。

〔動画再生〕

○用賀中学校 3年生の英語では1学期にラーニングサイエンスイングリッシュと題し、食物連鎖や生態系について英語で学びました。では、SDGsを学び、私たちが身近にできることとして、マイバッグを持ち歩くこと、3Rをすること、ポイ捨てをしないことなどが私たちにできるのではないかと考えました。3Rの取組みとして、用賀中学校ではコンタクトレンズケースの回収と古紙のリサイクルを行っています。用賀中学校では、アイシティブコプロジェクトに賛同し、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収活動を行っています。

身近にある多摩川の状況に目を向けてみると、イベントがあるとポイ捨てがされていてごみが多い状況です。また、登下校していると、道路にもお弁当のごみやペットボトルなどがポイ捨てされているのをよく見かけます。川のごみはやがて海に流れ着き、道路のごみも風などで飛ばされ海へと運ばれます。このままだと海洋環境はさらに悪化してしまいます。

学んだことを学んだで終わらずに行動に移していくために、美化委員会でのごみの分別や給食委員会の残菜を減らす活動など、各委員会にSDGsについての活動と呼びかけています。SDGsの学習をした生徒の感想をご覧ください。

〔動画再生〕

SDGs研究というものを通して、私は1人1人のつながりについて考えさせられました。今回の研究では、それぞれが違う目標や同じ目標でも自身の内容では知りえなかつ

た情報を調べているため、より見聞を深めることができました。そして、その中で、私は目標全体の連関性に気づきました。SDGsの17の目標と聞いたとき、問題がそれだけ個々で存在しているのかと面喰いました。ですが、実際に目標同士の内容をすり合わせてみるとその内訳には共通している箇所が多く、決して大きな問題が17個並んでいるわけではありませんでした。

これを受け、小さな努力の重要性について再認識しました。私達では力になれないと考えていても、微力でも手を貸すことで、色々な方向へとつながっていくのです。また、企業などでも、自身の特色を活かせる目標への取組みを行っているのだと分かりました。自分の行動がどう影響するのか考えながら生活していきたいです。

○用賀中学校 皆さんも、自分にできる少しの努力をはじめ、未来を変えるための一歩を踏み出してみませんか。以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

○飯田 御発表、ありがとうございました。用賀中学校の今市さんでした。学校の最初のSDGs研究の御紹介でしたが、中でも最後のところでSDGs17個の目標があるんだけど、17個独立している訳ではなくてそれぞれつながっているということとか、結果として1つのアクションが実はいろんなゴールの解決につながるんじゃないかというところは、僕自身もすごく共感する部分が大きかったですし、なるほどなと頷くことが大きかったです。

では、続いてもう1つの中学校の御発表に移りたいと思います。

2つ目の発表は、世田谷区立千歳中学校の御発表になります。千歳中学生の皆さん、画面オンにできますでしょうか。そうしましたら、2番目の発表、千歳中学校の中村さんと茂木さん、御発表よろしくお願ひします。

○千歳中学校 よろしくお願ひします。

千歳中学校では、令和2年度より学校全体でSDGsについて取り組んできました。これまでと違い、今年度から探究的な学習と関連し、ゼミナール方式の授業に取り組みました。これは、先生方がSDGs17の目標に基づいたゼミを開設し、生徒がそれを選択して課題に対して何ができるかを考える学習です。また、世田谷区ではキャリア・未来デザイン教育に力を入れており、キャリアや探究的な学習を重視しています。また、高校でもキャリア・未来デザイン学習は、選択科目として示されています。これからの時代は先行きが不透明であるからこそ知識を覚えるだけでなく、それをどのように活かして問題解決するかが考えられています。

今年の千歳中学校では、服のカプロジェクトとフィールドフェスティバルに参加することになりました。私たち二人が所属しているゼミナール、地域のカプロジェクトでは、世界的に規模が大きい問題に対して地域の中でも小さなことでもできることがあると知ってもらうために活動しています。

まずは、服のカプロジェクトです。服のカプロジェクトとは、地域で子ども用の古着を集め、世界で服を必要としている難民の方々に届ける活動です。服は最終的に様々な原因から自分のもとから手放さなければなりません。そのときに鍵となる考え方がつかう責任です。これは、人の健康や自然環境を守るために、世界的にごみの量を減らしCO<sub>2</sub>の排出を防ぐ目標です。

では、私たちが服の回収を通して気候危機に対して貢献できることとは何か。まず、服の回収はごみを減らすことができます。逆に、服を再生しないのでエネルギーを削減します。また、貧しい国々に送ることで貧困を救うことができます。

私たちの活動は計画を立てることから始まりました。具体的にどこでいつ服を回収するかなど去年の実施内容を参考に考えました。また、それぞれの班が回収場所への依頼、ポスター制作などを通し、なるべく多くの服を集めるために工夫をしました。現在は、回収期間中です。今年の活動の様子です。これは、パル児童館の回収場所に掲示をしたポスターの写真です。去年とは違い、週に1度ボックスが溢れていないか点検をするシステムができました。去年と同じ、またはそれ以上の服が回収できることを期待しています。今後の予定です。回収期間は、11月23日まで、23日以降は出荷作業に入ります。また、ゼミを通して学んだことをテーマに、各ゼミの代表者が学年全体に発表を行う活動も行う予定です。

次は、フィールドフェスティバルについてです。フィールドフェスティバルとは、毎年、パル児童館の前の道で行われるお祭りで、サツマイモなどを利用した料理を売っています。そして、その売上を寄付しています。この写真は前年度のものです。開催する手順としては、1、サツマイモを作る、2、加工する、3、それを売る、4、それで得たお金を寄付しています。これらを通して、SDGsの達成になると考えています。予定としては、収穫、準備、料理、本番となっています。

しかし、今年は感染症対策で料理ができないので、サツマイモをそのまま景品にすることにしました。なので、予定がこのように変わります。そして、今後の予定としては10月27日フェスティバル準備、打ち合わせ、11月13日フェスティバル当日、11月下旬

フェスティバル売上金先選定、そして寄付。11月30日サツマイモ寄付計画、地域の子供食堂へ連絡、配送量や時期の確認、12月5日配送、運搬予定となっています。

地域の力プロジェクト以外にも、健康や福祉、LGBTQについて取り組んでいるゼミもあります。このように、ゼミを通してSDGsを知り、2030年までにすべてのゴールを達成するためには、自分には何ができるのか身近に考えることができました。

「Think Globally, Act Locally」を意識して、私たちの未来へつなげていけたらなと思っています。ご清聴ありがとうございました。

○飯田 千歳中学校のお二人ありがとうございました。学校の中でのゼミナール形式での学習ということで、服の力プロジェクトとフィールドフェスティバルということで御紹介いただきました。両方、授業の一環だと思うんですけど、服の力プロジェクトだとユニクロさんみたいな企業と連携したりとか、フィールドフェスティバルだと終わった後売り上げを寄付するみたいなのところで、学校の中だけにとどまらずに社会との接点を持っているところにすばらしいな、すてきだなと思って聞いていました。

ここで中学校の2団体の御発表が終わったので、用賀中学校と千歳中学校の皆さん、画面をオンにさせていただいて、私から質問させていただければと思います。

中学生の皆さんの発表が終わったところで、皆さんに共通で1問だけ質問をしたいんですけど、今市さん、中村さん、茂木さんと学校の取組みを御紹介いただいたと思うんですけど、それぞれ個人として実際にこの授業とかプロジェクトを進めてみて感じたこととか、特に印象に残っていることとかがあれば、一言ずつお話しただければなと思うんですけど、用賀中学校の今市さんから、個人として参加してみた感想を教えてもらってもいいですか。

○用賀中学校 はい。先ほどの私の取組みの紹介の中でも、給食委員会の残菜を減らす活動ということを少しだけお話させていただいたんですけど、その取組みを通して私のクラスでは最近残飯が本当にゼロということが増えてきていて、最初の方はみんなSDGsとか聞いてもあまりぱっとしないというか、詳しく分からなくて何をしたらいいかということが分からない人が多かったので、その授業を通したりとか生徒会からSDGsについて発信したことで、残飯の量が学校全体で減っていることにすごく皆がSDGsについて関心を持っているなというふう感じて、ちょっとずつ自分でできる小さなことを始めることが何か大きなことにつながるのではないかと確認することができて、これから学校内だ

けじゃなくても、学校外で何かこのような取組みが世界につながればいいなというふうに思いました。

○飯田 ありがとうございます。確かにそうですね。残飯ゼロみたいに目に見える成果があるとすごく嬉しいし、それがSDGsとか社会にもつながっていると分かったら、よりモチベーションも高まるかなと思いつつ、すばらしいですね。千歳中学校の中村さん、茂木さんも一言ずつ感想をお話いただけますか。

○千歳中学校 僕の感想としては、回収の量が結構多くて、目に見える成果が出てとても嬉しかったですね。

私は自分自身の変化なんですけど、元々、私はすごく服が好きで、着られなくなったものも思い出があるからと言って捨てないような人だったんですけど、服のプロジェクトを通して、世界には1億人以上の難民がいてその半数以上が子どもといった事実を知ったときに、今まで日常生活において少し我儘だった自分が何か力になりたいなと思うようになったので、そこが自分は大きく変化したなと思いました。

○飯田 ありがとうございます。中村さんがおっしゃってた服が好きみたいな、自分の好きなこととか楽しくなきゃ続かないと思うので、好きなことが社会貢献とかにつながるっていいなと思って伺っていたり、茂木さんがおっしゃってたように形になったり数が出てくると、やってるんだな、変わってるんだな感が出てすごく共感しました。

皆さんありがとうございます。用賀中学校、千歳中学校でした。

この後、3団体目の発表に戻りたいと思います。3団体目、SDGs子ども勉強会プロジェクトの発表になります。SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん、画面をオンにして発表のご準備をよろしくお願いいたします。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト はい、櫻井晃太郎です。SDGs子ども勉強会プロジェクトの企画の代表をしています。本日は、よろしくお願いします。本日、3人のメンバーがいるので、自己紹介してもらおうと思います。じゃあ、お願いします。

桐朋女子高等学校1年の小澤祈和です。

渋谷教育学園渋谷中学校1年生の守屋鴻です。

東京学芸大学附属竹早中学校1年の福田馨子です。

早速ですが、私たちの紹介、現在、取り組んでいる活動について、簡単にお話させていただこうと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

まず、団体の紹介をさせていただきます。活動の目的は究極には、「SDGsの目標の達成」です。誰もがその人のいる場所で、自分だけでなくその子孫まで、持続可能に幸せに暮らし続けられる社会を作ることを目指しています。その目的を達成するために、3本の柱を立てました。まず、「認知度向上」。地球上で起きている問題を広く伝えて知ってもらおう。次に、教育による「意識改革」。私たちは日々の生活で何かを選択して、人の選択が当たり前で持続可能なものになるように意識の底上げが必要です。もちろん、子どもだけでなく、今すでに社会の一翼を担っている大人の意識の向上も必須です。そして、重要なのは「行動」です。SDGsは、知るだけでは問題解決しません。1人1人が当事者として、アクションを起こさなければだめなのです。

現在、メンバーは小学生から大学生までいて、多世代メンバーなのが特徴です。具体的な活動を紹介します。まず、学びです。この左上の写真をご覧ください。これは、今使われている教科書です。現在、小学校、中学校、高校での指導要領にSDGsが入っています。学校での学びに、教科を越えて考えるときの基本にSDGsが入ってきていることを示しています。私たちは、自分が得た知識を勉強会で伝える活動をしています。小学校で出前授業をしたり、オンライン授業、カンファレンスもしています。また、企業や自治体、NGOとも連携して活動しています。TBS社食でミートフリーメニューを提供したり、小学校で大豆ミートを使った給食を出したこともあります。11月にはTBSと協力して、赤坂サカスでミートフリーメニューを販売する予定です。そして、広報活動もしています。週1で30分のSDGsのラジオ番組を放送しています。専門家をゲストに迎えることもあります。加えて、政治家や自治体への陳情も行っています。私たちがこのような活動をしているのはなぜか。最近では、学生の活動が目につくと思います。子どもは、無意識でも地球温暖化に危機感を持っています。このままでは、自分たちが大人になったとき、今の生活はできないことを知っています。大人より時間軸を長く持って、地球の問題を見ています。私たちにとってSDGsは、先の未来、これから地球で生きていけますかという自分が当事者の問題です。取返しがつかなくなる前に声を上げ、行動を起こしているのです。

私たちは、現在、ミートフリーに注目して活動しています。ミートフリーマンデーとは、地球や自分のため週1ベジをはじめませんかという活動です。実は、日本でもミートフリーが進められています。日本での官公庁ベジメニュー導入状況は、こちらのようになっています。さて、国連広報センターの情報で、世界の人口は2100年には110億人

になると予想されています。動物を育てるには、この表のように餌になる飼料や水が必要になります。肉を食べているということは、同時に育てるための多くの穀物と水を採っているということがお分かりいただけると思います。また、動物を育てるために森林を伐採している問題もあります。動物用の穀物を途上国の食糧に充てれば、貧困問題解決の一助になるかもしれません。また、飼育環境も問題で、これは目標の15番陸の命を守ろうにあたると思います。ここに書いてあるとおり、動物のフンやゲップからは二酸化炭素の約20倍の温室効果ガスのメタンガスが発生します。さらに、運搬の問題もあります。運搬には、エネルギーを使いますしCO<sub>2</sub>も排出されます。

最後に、健康面のお話をします。お肉中心の食生活は病気になるリスクがあります。お肉を少し控えると自分の身体にもよく、生活全般の意識が上がると考えています。簡単ですが、ミートフリーがSDGsの問題に深く関わっていることが理解していただけましたでしょうか。ここで、誤解していただきたくないのは、私たちは肉を食べるなど言っているのではないということです。こちらに示したように、バランスが大事だと考えています。問題意識を持ち、考えて選ぶ、生活全般に意識を広げ、自分で何ができるのか、ぜひそれぞれの立場で考えて行動して欲しいということをお伝えしたいです。

まとめに入ります。SDGsは、会社で取り組むものではなく、産学官民の共創が必要だと考えています。SDGsの目標達成には、何より1人1人の行動が大切です。昨年の、世田谷区の環境フォーラムでもお伝えしましたが、確かに1人での100歩も大事です。しかし、100人の1歩を踏み出すことが大切だと思います。その方が、容易に活動の輪が2倍にも3倍にも広がりやすいと思いませんか。ぜひ皆さんに、はじめの一步を進んでいただき、もう歩みを進めている皆さんとは力を合わせ、さらに大きく前に進んでいきたいです。本日は、ありがとうございました。

最後に、プロジェクト公式のインスタグラムのURLです。ぜひ私たちとつながってください。ご清聴ありがとうございました。

○飯田 SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん、ありがとうございました。このプロジェクトは、若者と一口に言っても、小学生から大学生まで若者の中でも多世代が協力しながら進めているプロジェクトということで、少し特徴的だなと思いながら聞いていました。自治体とかに意見を言うだけじゃなくて、企業とコラボしたりとかNGOとコラボしたりして、実際にアクションにつなげているところもすごいなと思って伺っていました。

では、続いての御発表に移りたいと思います。4番目の発表は、慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクトの皆さんの御発表となります。環境プロジェクトの皆さん、画面をオンにして画面共有の準備をお願いいたします。

では、慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクトの皆さん、御発表よろしくお願いたします。

○慶應義塾湘南藤沢高等部 こんにちは。慶應義塾湘南藤沢高等部の環境プロジェクトです。環境プロジェクト、略して環プロとは、環境を身の回りのもの全てと考えて活動している団体です。例えば、海の水質汚染や山の自然破壊といった自然環境で起きる問題と、人の密集で起きる都市問題やごみ問題といった社会環境で起きる問題は密接に関わっています。そのため、私たちは、環境を身の回りのもの全てと定義し活動しています。

環プロは2002年に発足し、今年で20年目を迎えます。また、参加メンバーは高等部生約720人のうち約130人です。なぜ、これだけ大勢が集まるかというと、本校唯一の有志団体だからです。有志団体であるため、クラブ活動や委員会活動と両立しながら活動に参加できます。よって、所属するメンバーのほとんどが、クラブ活動と兼ねて参加しています。そして、環プロには5つの班があります。メンバーそれぞれが関心のある活動や問題に沿って自由に参加することができます。

まず、1つ目は高校生環境連盟です。全国の高校生とつながるをモットーにして、おうち環境会議や環境フォーラムという全国各地の高校生が参加するオンラインイベントを開催しています。続いて、教育デザイン班です。この班では、環境問題を小学生の自分事にするをモットーに本校の系列小学校である幼稚舎と横浜初等部、また、メンバーの出身校である複数の公立小学校で出前授業を実施しています。次は、企業連携班です。企業と連携し、より社会的に活動を広げており、Go Green Groupさんと連携した浄水事業やスターバックスコーヒーさんと連携しごみの分別を喚起するポスターの掲出などを行っています。続いて、たべもの班です。食品ロスを生徒に発信するために、完食前後のお皿の写真を使ったモザイクアートを作成し文化祭で発信したり、組写コンテストで賞をいただいたりしました。最後に、コミュニティ班です。遠距離通学者が多いからこそ弱い地域とのつながりを強めようと設立した班です。近隣住民の方と会話をし、より深く学校の周辺地域を知るフィールドワークをもとにベンダーマップを作成し、図書室や文化祭で展示しています。以上の5つの班で、環プロは構成されています。より良い環境を目指して、これからも活動して行きます。ご清聴ありがとうございました。

○飯田 環境プロジェクトの皆さん、ありがとうございます。すごく長い間歴史を感じる長く活動されているんだなということと、5つのプロジェクトに分かれて様々なテーマで活動されている姿が印象的でした。また、他のところも同じように自分たちだけにとどまらず、スタバさんとか企業と連携してみたいなところは、実際に行動されていてすごいなと思いました。御発表、ありがとうございます。

では、また2団体に御発表いただきましたので、SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さんも一旦画面をオンにさせていただいて、少し質問の時間を取りたいと思います。

この間、チャット欄で感想や質問をいただきありがとうございます。この2団体の発表にもたくさん感想をいただいております。中高生の方もSDGsについて深く考えていることに深く感動しました。服のプロジェクトのような身の丈にあった、ユニクロのような企業をからめているのはすごいですね。というのは恐らく、前の発表の千歳中学校へのご感想ですかね。また、恐らくSDGs子ども勉強会プロジェクトさんへのご感想としては、畜産が環境に与える影響は、私は最近知ったのですが、子どもたち若者世代がいち早く活動を起していることに感心しました。小中高生世代がやることで大人も関心して自分もやろうと思いましたという感想もいただいております。

また、改めて各団体1問ずつ、御質問できればと思っています。1人ずつ全員に話してもらいたいとこなんだけど、そうすると時間がないので各団体代表して1人ずつお話しただけると嬉しいです。今、発表してもらった中で、割と企業とか社会とかいろんな人とコラボしてって言うところが多かったと思うんですけど、特にその中で印象的なエピソードとかやってよかったなっていう、社会が変わったなと思うような瞬間とかがあれば、ぜひ教えて欲しいなと思うんですけども。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト はい。じゃあ、僕が代表して答えようと思います。いろいろ活動していて、僕個人としては2015年くらいから活動をはじめたんですけど、テレビでSDGsという問題が出たり、学校にSDGsっていうのが出てきたりというのはすごい成長ってなんか上から目線で申し訳ないんですけど、成長なのかなというのはすごい感じていますし、自分たちのグループからするとマルコメさんとかとコラボさせていただいたりとか、世田谷区さんとかやって環境フォーラムできるってこととかは大きいなっていうのはグループ的にも感じています。

○飯田 そんな謙遜することなく、やっとな社会が追い付いてきたなって感じですよ。櫻井君的には。ちなみに1つ、参加者からの御質問があつて、答えられたら教えて欲しいん

ですけど、SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さんが実際に行なっている食べ物選びとか視点みたいなものがあれば教えて欲しいですという御質問をいただいているんですが、ミートフリーマンデーとかやられてて、自分でも意識している、なんか食べ物に関する取り組みとかがあれば、ひとつ御紹介いただけますかね。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 私は、ミートフリーに関してというより、食全般として返答しようと思うんですけど、私は食品をスーパーとかで選ぶ際には、必ず裏側の成分表などを見るようにしています。添加物とかどういうものが、加工されているものだったらどういうものが入っているのかっていうのは、自分の体に取り込むものなので知っておきたいなっていうのが強く思っているからです。後は、野菜など生もの、お肉に関しては、時間があるときは毎度毎度はできないですけど、生産者とかを調べてどういう育て方をしているのかっていうのを調べることで、自分が安心して周りの人にも食べてもらう人にも安心して食べられるものなのかっていうのは、自分で確かめるしか方法はないと思うので、そこに意識をして消費活動をしています。質問の答えになっているでしょうか。

○飯田 丁寧に答えていただきありがとうございます。そうですね。子ども勉強会プロジェクトの皆さんも知るから行動へみたいなのところで、まず、知るという意味では、食べ物を食べるときには、どこで誰が作って何なのかっていうのを知った上で判断するというのは、重要だなと思いながら聞いていました。

環境プロジェクトの皆さんも、二人のうちどちらか代表してでいいんですけども、実際に活動してみて、特にやっててよかったなと思うこととか、社会が変わってきたなと実感したことなど、特に印象に残ったことなどあれば、ひとつ御紹介いただきたいんですけど。いかがでしょうか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部 少し抽象的な話になってしまうんですけど、さっきも説明したように、私たち企業班というグループではスタバさんと連携して実際に各店舗にごみ分別のポスターを掲示させていただいたりとか、後はマグカップやタンブラーを紙カップの代わりに使っていただいたお客様には紙をお配りして、それが実際に貢献していることが分かるようなポスターを掲示させていただいて、そういうことを通して環境プロジェクトというグループがあることによって、企業さんや社会の地域の人々が環境に貢献する第一歩を踏みやすくなっているのかなと思って、私たちが間に仲介役として入ることによってクッションとなって、私たちも社会に貢献できるし、地域の人々が貢献するため一歩を出しやすくなるような存在であることが、すごい重要な役割なのかなと感じました。

○飯田 ありがとうございます。まさに仲介役とおっしゃっていたのがそうだなと聞きながら思っていて、感想の中でも中高生が様々な活動をしていることに驚きました、刺激を受けました、自分もやってみたいと思いますというようなメッセージもたくさん頂いているので、スタバとか企業が発信するのと中高生の皆さんが発信するのと、受け取り側の受け取り方伝わり方も違うのかなと思いつつ伺っていました。最後に、環境プロジェクトさんに質問が来ているので回答いただきたいんですけど、班を5つに分けて活動されていると思うんですけど、メリットとか各班でのお互いの情報共有とかはどうされているんですかみたいな質問がきています。今、何人ぐらいいらっしゃるって、班でどんなふうに進めているのかみたいなところを簡単に御紹介いただけますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部 はい。先ほども紹介したように、環境プロジェクト全体では130人ほどメンバーがいるんですけど、その中でそれぞれが自分の入りたい班を1つ以上、1つの人もいるし、何個も入っている人もいるというふうを選んで入ることができて、班によって所属人数はばらばらです。分けるメリットは、各班によって本当に様々な活動をしているので、全部を一度にやると言うのはかなりの量になってしまうので、あと日程がかぶっていたりとか、すべてを1人がやることはできないので、班に分けて自分がやりたいものをより深めてできるように班に分けています。

○飯田 ありがとうございます。130人いるというのはすごいと思うのと、1人が複数の班に入ることもできるってことなんですね。子ども勉強会プロジェクトの皆さん、環境プロジェクトの皆さん、御質問含めて答えていただきありがとうございました。

では、続いてですね、5団体目、6団体目の発表のほうに移っていきたいと思います。ここからは大学生の皆さんの発表に移りたいと思います。5団体目が東京都市大学ISO学生委員会の取組みの御紹介になります。ISO学生委員会の皆さん、画面オンにして、画面共有の準備をいただけますでしょうか。

たくさんのチャットいただきありがとうございます。引き続き、感想や質問をどしどしお書き頂けるとありがたいです。では、ISO学生委員会の皆さんよろしくお祈りします。

○東京都市大学 こんにちは、私たちは東京都市大学ISO学生委員会教育部会の山崎です。羽賀です。よろしくお祈りします。

本日は、地球温暖化の現状と身近に起きた被害について説明するとともに、私たちが所属しているISO学生委員会について御紹介いたします。まず初めに、地球温暖化の現状と影響について説明いたします。

産業革命以降、石炭や石油といった化石燃料が大量に使用され、二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に排出されるようになりました。その結果、地球が過度に温められ、近年になればなるほど、温暖化が急激に進んでいます。温暖化による気温上昇に伴う被害として、大型台風や干ばつなどの異常気象によって、豪雨被害や水不足による食料の高騰や食料不足など、生活全般に影響が懸念されています。身近な例として、2019年10月12日に、首都圏を直撃した台風19号による大雨で多摩川が増水した影響により、東京都市大学世田谷キャンパスの建物の半数にあたる8棟が浸水した例があります。

次に、私たちが所属しているISO学生委員会について説明いたします。東京都市大学横浜キャンパスが取得した環境マネジメントの認証であるISO14001の維持管理と環境問題への実践的な対策を目的に、大学のキャンパスや学外での活動をしている団体です。主な活動内容として、環境講座、省資源・エネルギー化、企業協力、情報発信などに取り組み、環境に対してマルチに活動しています。

ISO学生委員会には、省資源部会、省エネルギー部会、環境教育部会の3つの部会があります。それぞれの部会の活動内容をより詳しく説明します。

省資源部会では、資源に焦点を当て、回収、啓発を行っています。特にキャンパス内を中心に、資源の面から環境問題を見直し環境にやさしいよりよいキャンパスを目指し活動しています。具体的な活動として、資源回収ボックスの中の分別状態を調査し統計を出す混在率測定、ボトルキャップを分別回収しリサイクルに回すキャップ回収、分別を促すポスターや環境に関するポスター制作があります。資源を分別して回収することで、廃棄物CO<sub>2</sub>の排出量を減らして、気候変動への対策へとつなげています。

省エネルギー部会は、横浜キャンパス構内の省エネ活動、啓発を主に行っています。各施設と連携を持って活動し、実現可能な省エネルギー手法を各施設に提案することで、省エネルギーの実現を目指すことを目的として活動しています。具体的な活動として、グリーンカーテン、電力・照度測定、エネ報の発行、冬企画に取り組んでいます。省エネ活動を活発に行うことで、気候変動の原因となっている温室効果ガスの排出を抑制することができます。

環境教育部会の主な内容は、新入生教育、環境講座、エコキャンパスツアーの3つです。環境について、より多くの人に正しい知識を持ってもらうことを目標に、様々な講座やフォーラムを通して地域の方や大学内の環境について話しています。実際に、私たちも入学後にISO14001、横浜キャンパスの取組みについてガイダンスを受けました。

実際に、環境の変化や異常を感じる人々も多いと思いますが、気候変動問題はまさに非常事態を迎えています。国連加盟193か国が2030年で達成するための目標、SDGsでは誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を掲げています。それに向けて、一人一人も環境問題を自分事として考え、行動を変化させる必要があります。SNSが普及している現代だからこそ、情報発信したり、受け取ることを容易に行うことができます。日常生活の一部に環境問題について触れる機会を作ることは、子どもから大人まで誰もができることではないでしょうか。一人一人が行う小さな取組みでもたくさんの人が取り組むことによって大きな力となります。本日の発表も参考にしながら自分にできることを考えて行動してみてください。

以上で、東京都市大学ISO学生委員会教育部会の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○飯田 ISO学生委員会の皆さん、御発表ありがとうございました。まさに、世田谷キャンパスの台風の浸水みたいな気候変動を身に染みて感じるようなご経験もありながら、いろんな部会に分かれながら、さすが大学生って感じですごくレベルが高いというか、多岐に渡る専門性の高い活動されていることがすごく印象的でした。また、SNSの発信とかは、若者ならではののかなというふうに感じながら伺っていました。

では、お待たせいたしました。6団体目、最後の団体の御発表に移りたいと思います。上智大学Green Sophiaの御発表になります。Green Sophiaの皆さん、画面オンにして、発表の準備をよろしくお願いします。

○Green Sophia 皆さん、こんにちは。上智大学環境保護サークルGreen Sophiaの帆井と申します。原です。よろしくお願いします。

それでは、初めに私たちの環境活動を行う上での、理念でしたり、目標について紹介したいと思います。私たちの活動理念は、「Learn with us, act with Green Sophia, inspire others.」です。共に学び、共に行動することで、誰かを刺激するということを意味しています。私たちは、この活動理念をもとに、環境インフルエンサーという

ものを目指しています。環境インフルエンサーって何って今、思った方たくさんいらっしゃると思うのでご説明しますね。

環境インフルエンサーとは、環境問題の分野において、1人1人が家族や友人など身近な人たちに、私も何かやってみようと思ってもらえるようなきっかけや影響を与えて、その輪を広げていく人を意味しています。一般的に、インフルエンサーというと、1人が1つのグループがという単位で、何万人、何十万人のフォロワーに広げていくっていうイメージだと思うんですけど、私たちが目指す環境インフルエンサーというのは、1人1人が身近な人たち、家族、友人たちに広げていくというところに特徴があります。1人1人でやるということで影響力は小さいかなと思うんですけど、でもそれをみんながやることで、影響力って大きくなっていくんじゃないかなってふうに信じて活動しています。

では、ここから Green Sophia の活動内容について御紹介いたします。私たちは、環境インフルエンサーとして、先ほど御紹介したこちらの理念をモットーに活動しています。

これは、「Lern with us. 共に学ぶ」の例です。例えば、オンライン勉強会を行っています。ここでは、普段自分たちが疑問に感じたことや気付いたことに関してシェアすることで、お互いの知識を深めています。右にある写真は、寝転がって何をしてるんだと疑問に思うかもしれません。これは、環境ラボの活動のひとつです。環境ラボとは興味のある分野への知識を深めるために、Green Sophia 内で幾つか作ったグループになります。この写真は、環境と人間の関係性について考えるラボになっています。昭和記念公園にサイクリングに行って、自然と触れるとはどういうことか、自然を守るとはどういうことかについて改めて考えた企画でした。

続いて、「Act with Green Sophia. 共に行動する」の例です。例えば、小学校と連携してワークショップを実施したり、真ん中の写真は他の団体とコラボして、山手線一周ごみ拾いを行った時の写真です。実際山手線半周ぐらいで、ちょっと疲れてストップしてしまっただけですけど、まちなみも綺麗になりましたし、やはり楽しむことが一番だと考えています。右側の写真は世界気候アクション、9月23日に行われるものにミーティングの際に各々の気持ち想いをメモや手に書いて写真を撮った時のものです。

最後に、「Inspire others. 誰かを刺激する」の例です。左側の写真は、インスタグラムの写真です。ここでは、Green Sophia の活動内容を発信したり、簡単ですぐにできるおしゃれにエコアクションを発信しています。右側の写真は、大学のごみ箱に分別を呼びかけるポップを貼り付けたときのものです。写真には、お弁当プラ容器は燃えないごみ

へと書いてありますよね。これは、汚れてしまったプラスチックが燃えるごみと燃えないごみどちらになるんだろうと Green Sophia 内で疑問を持ったときに、実際に業務をやっている方に確認して燃えないごみと言われたので、学生たちが迷わないようにポップを貼り付けたときのものになります。このように、Green Sophia は、様々な活動を行っています。

まとめに入りたいと思います。私たちは活動する上で、仲間とゆるく楽しみながらというところを意識してやっています。1人でストイックに黙々とやるということも、1人でゆるく楽しみながらやるということも否定するわけではありません。ただ、ストイックにやってる姿を周りの人が見たときに、どうしても印象としてしんどそうだなという感じを与えてしまったら、それって周りの人にいい影響を与えられないんじゃないかなと思うんですね。でも、皆が楽しそうにわくわくしてたら、何か楽しそうだから自分もやってみようかなって皆さんも思ったりしませんか。そこで、私たちは1人でゆるく楽しむ、そして、さらにそのうえ、仲間とゆるく楽しむというところを意識しながら活動しています。これらが1人の100歩より100人の1歩につながるのではないかなと考えています。

最後になるんですけど、お知らせになります。私たち、12月にサステナビリティウィークス、今年はデイズかな。今年は、サステナビリティデイズというものを開催します。テーマは、サステナブルクリスマスということで、ぜひ興味がある方は公式Instagramや公式Twitterから情報確認してください。よろしくお願いします。SNSも宣伝させていただきます。InstagramとTwitterやっていますので、よろしかったらフォローお願いします。

Green Sophia の発表は以上となります。ありがとうございました。

○飯田 Green Sophia の原さん、帆井さんありがとうございました。

環境インフルエンサーってということで、やはり楽しくゆるくみたいなのが発表の話し方とか伝え方とかスライドとかにも随所に伝わってきて、さすがだなと思いながら伺っていました。

ではですね、ISO学生委員会とGreen Sophiaの皆さんに質問をさせていただければと思います。共通の質問でお伺いしたいんですけど、皆さん、サークルだったり学生委員会みたいな強制されて授業の中でやってると言うよりかは、自主的にやりたいなと思って団体に所属したり委員会に所属されたりみたいな感じだと思うんですけど、そもそも大学って環境以外にもいろんな楽しいことがあったりする中で、何で環境の今の団体でやろう

と思ったのかなみたいな、きっかけとかあれば、ぜひ共通でお伺いできればなと思うんですけど。都市大学さんと上智大学さんで、お1人ずつお話できそうな方からお話しただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

○東京都市大学　じゃあ、私の方から先にお答えいたします。私が、ISO学生委員会に入ろうと思ったきっかけというのが、高校生の頃から環境についてすごく興味を持っていて、高校生までだと行動範囲とかってというのが意外と制限されていたので、大学生になって行動力もある程度増えたところで、やっぱりいろんな活動をできる場所にすごく惹かれていて、それでISO学生委員会にすごく興味も持って入ろうかなというふうにしたのが一番ですね。

○飯田　高校生の頃から、その分野で活動したいなっていう夢をもって大学に入られたって感じですかね。ありがとうございます。Green Sophiaさんはいかがですか。

○Green Sophia　Green Sophiaに入ったきっかけは、私は大学の授業でした。大学の授業で、環境教育っていう授業を受けまして、世界で自分が知らなかったところすごく深刻な問題が起きてるんだなってことを知ったときに、自分でも何かやらなきゃなと思って、それをきっかけに環境問題っていう分野で自分ができること、とりあえずツイッターで上智大学、環境サークルって検索して出てきたのが、Green Sophiaだったので、Green Sophiaに入ったというのが流れでしたね。

○飯田　授業をきっかけに環境に興味を持って、その調べるというアクションはご自身でされて、今の団体に出会ってという感じですかね。ありがとうございます。

　　今後は、きっと皆さんも、逆に調べられる側というか、後輩の皆さんとか社会の皆さんに伝える側になられているんだろうなと思いながら頼もしく思っていました。

　　ちなみに、参加者の方からGreen Sophiaさんにコメントを頂いております。Green Sophiaさんの発表、刺激的でした。あるコミュニティの3.5%、一部でも人がアクションに参加すれば社会を変えられると実証されています。楽しみながら、完璧を目指す皆さんと一緒にアクションしていきたいですねというコメントをいただいております。あと、スライドデザインのクオリティが高く、お二人の喋り方に魅了されましたというコメントもいただいております。こうして1人1人インフルエンサーとして広げていく姿はさすがだなと思っております。

　　では、都市大学のISO学生委員会の皆さん、上智大学のGreen Sophiaの皆さんの質問タイムはこの辺りにしたいと思います。

最後、残された時間は 20 分ぐらいかなあとと思います。御発表いただいている 6 団体の皆さん、画面をオンにさせていただいて、少し全体でフリーのトークタイムにしたいと思っております。

あっという間に、6 団体の御発表終わってしまいました。僕も全体の発表を聞いていて、やはり楽しむとか本当に生き活きと自分の言葉でしゃべられているなっていうところが印象的だったり、あと中学校とか高校とか大学っていう立場は違えど学校の中だけでやっているというよりかは、社会の地域だったりとか企業さんだったりとか、あるいは同世代の他団体であったりとか、そういうとことコラボしながら進められているなっていうところが共通点として、印象に残って聞いていました。

ここからは、6 団体の皆さんに共通の質問をして答えていただくみたいな形で、進められればと思っております。団体の皆さん、それぞれ手元にフリップですね、画用紙とかとペンお持ちですかね。この後、私の方から質問させていただくので、その回答をキーワードですね、フリップに書いていただいて、皆さんで画面上で掲げて御紹介いただくみたいな形で進行できればと思っております。

では、この後、2 問くらい共通の質問をさせていただければと思っております。1 つ目の質問なんですけれども、今もあったように 6 団体の共通点として、自分達だけじゃなくて、身近なところでいうと友達だったりとか大学とか含めて学内の人っていうのもそうですし、地域だったり企業だったり NPO、NGO だったり行政だったり、いろんな他者との関わり合いの中で活動を進められているのかな広げられてるのかなと思ったんですけど、そういう自分たち以外の世代の人自分たちじゃない立場の人と一緒にやる中で、気づいたこととかよかったなと思うこととか、あるいは難しいなと思うこととか、何か自分たちの団体以外の関わり合いの中で印象に残ったキーワード、エピソードなどあれば、教えていただきたいなと思います。

30 秒から 1 分ぐらいのシンキングタイムというかですね、書く時間を取りたいなと思うので、他者との関わり、自分たち以外の団体とのコラボの中で印象に残ったこと、ポジティブな面でも今後の課題でも大丈夫なので、一言ずつフリップに書いていただければと思います。もし、書き終わったら、終わったよ、もう大丈夫だよと合図でフリップを掲げて待っていただけるとありがたいです。

聞いていただいている皆さんも、引き続き、質問や感想などお待ちしております。時間の許す限り御紹介したり団体の皆さんにお聞きできればと思いますので、引き続き Q &

A欄へのご記入よろしくお願いたします。1人1つと言うよりかは、1団体1枚という感じで書いていただけるとありがたいです。特に、何か正解があるわけじゃないので、率直な感想とかですね、やってよかったなと思うこと、やっぱ大人とやると難しいな、うまくいかないなと思うこととかですね、忌憚なく正直なことを書いていただけるとありがたいです。書き終わったら、前にフリップを掲げていただけると嬉しいです。

I S O学生委員会の皆さん、ありがとうございます。「自信を持って楽しく活動していることを伝える」と書いていただけてますね。後ほど、補足説明いただけるとありがたいです。皆さん、いかがですか。環境プロジェクトの相澤さん「私たちの授業を受けた後輩が入ってくれた」。なるほど、嬉しいエピソードですね。SDG s子ども勉強会プロジェクトの方は「ミートフリー導入へのハードル」ですね。千歳中学校の皆さんは「相手への配慮」。深そうですね。後で、ぜひ伺いたいですね。Green Sophiaさんは「刺激の交換」。ありがとうございます。そしたら、用賀中学校の今市さん、引き続き、考えて書いていただいて、準備ができている団体さんから、順番に1分くらいで書いている心を解説いただけるとありがたいです。

もしよかったら、最初に、真っ先に書いていただいたI S O学生委員会の皆さん、「自信を持って楽しく活動していることを伝える」ということで、その意図とか思いがあれば補足いただけますか。

○東京都市大学 はい。私たちI S O学生委員会は、I S O学生委員会の活動を、いかに自信をもって楽しく活動しているかを伝えることが重要だと感じました。活動内容が強制的だったり、つまらなそうだったりすると、協力してくれる方々がついてきてくれない、私たちの活動内容に興味を持ってくれなくて協力してくれないってことが起こってしまうと考えるからです。1人1人が取り組む意識を持つことで、良い雰囲気が出ると考えます。以上です。

○飯田 ありがとうございます。そうですね。楽しく活動して、生き活きと活動している、本物の言葉には人は動くなと改めて感じていました。環境プロジェクトの相澤さんが書いてくれた「私たちの授業を受けた後輩が入ってくれた」というのも、もしかしたらI S O学生委員会さんのとこと通じるものがあるのかなと思ったりもしたんですけど、そのエピソードをもうちよっと詳しく教えてもらうことができますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部 はい。皆さんと違って、ホワイトボードにそもそもの出来事を書いてしまったんですけど、先ほど活動紹介で挙げた班のひとつの活動として、教育デ

ザイン班っていうのがあって、出身校とか系列の小学校に授業をしにいったというのがあると思うんですけど、私たちの中高に直接つながる小学校として、横浜初等部っていうのがあって、今年の高校1年生の代からその子たちが私たちの学校に入ってきているんですけど、私たちや上の代の先輩方がその子たちに対して出前授業を行ったというのを今の高1の子たちが覚えてくれていて、それをきっかけに環境プロジェクトに入ってくれたという子がたくさんいたので、それは私たちが自分の学校だけじゃなくて、学外と連携することで得られたことかなと思いました。逆に、難しかったこととしては、小学生に対して授業をするので、環境というのは小学生にとっては少し難しい問題かもしれないんですけど、それをどうやったら分かりやすく興味を持ってもらえるというのを工夫して取り組んでいます。

○飯田　すごいですね。授業した相手の児童、生徒の方が実際、自分たちのプロジェクトに後輩として入ってくれたっていうのはまさに授業した甲斐があったというか、きっと授業を受けた人にとっては何かしら刺さるものがあったり、入ろうってアクションにつながる何か思いとか秘訣があったんだろうなと伺いながら聞いていました。ありがとうございます。

それでいくと、出前授業とか、環境プロジェクトさんの場合は小学生ということで、若者の中でも教える教えられるみたいな、次世代へつなげるということをやられてれていると思うんですけど、さっきの御発表の中で Green Sophia さんも、鎌倉の小学校で出前授業されているみたいなのところもあったと思うんですけど、書いていただいている「刺激の交換」の解説も含めて、出前授業の辺りも教えていただいてもいいですか。

○Green Sophia　はい。私たちは、他とコラボしてよかったこととして「刺激の交換」というものを挙げたんですけど、というのはごみ拾いであったり出前授業を通して私たちの活動を知ってもらって相手が驚くということはもちろんですが、相手も私たちの活動を知って、そんなこともできるんだねとかそういう活動を私たちもやってみたいと思ってもらえることがいいなと思っています。同じ目標に向かっていても道筋はたくさんある、そういうインスピレーションを得るのがよかったことだと思っています。出前授業に関しては、やはり大学生の頭と小学生の頭って考えることが全然違うので、本当に全然頭になかったアイデアをもらえる、これが出前授業のいいところだと思っています。以上です。

○飯田　そうですね。若者って一口に言っても、大学生と小中学生だとちょっと違うかもしれないですよね。いい意味で違うかなと思いました。ちなみに、帆井さん、今日のフ

オーラムを聞いていて、中学生、高校生の発表も聞いたと思うんですけど、何か違うなと思うところか、すごいなと思ったこととあってありますか。

○Green Sophia そうですね。本当にSDGsが浸透してきたんだなとすごく感じました。今、大学3年生なんですけど、私が中学生、高校生のときってSDGs、はて、みたいな、そんな感じだったんですけど、学校単位でとか学校の中でも有志の中で結構な規模感でやってるって言うところは、本当にSDGsが浸透してきた証拠だなって思っていました。

○飯田 ありがとうございます。では、続いて、千歳中学校の皆さん「相手への配慮」って書いていただいて、すごく深そうだなと思って聞いていたんですけど、どんな思いでこれを書いてくださったか、御紹介いただけますか。

○千歳中学校 はい。さっき、Green Sophiaさんも言ってたんですけど、やっぱり私たちが考えることと大人が考えることって全然違って、実は私は、去年も服のカプロジェクトに参加していたんですけども、発表でも言ったように今年から集めたボックスの服が溢れていないか点検をするシステムができたんですね。これは、実は私たちが自分から考えてというよりは依頼した場所がお願いしてきたことなんですけども、相手への配慮っていうのは自分たちの服をたくさん回収するために、服をたくさん回収したいという思いをそのままぶつけるんじゃなくて、ちゃんと相手への配慮、相手と私たちがどうすればお互い気持ちよく、いい関係で服を回収できるかを考えさせられましたね。相手への配慮がないと、服が持続的に長い間回収できないと思ったので、やっぱり相手への配慮は大切だなって気づくことができました。

○飯田 大人と考えが違ってということは僕も刺さるところがあって、きっと世代が違うと考えとか意識とか違う部分がありつつ、SDGsとか気候変動みたいな共通の課題に向かってやっていくためには、配慮を持ちながら一緒に取り組んでいくことは重要だなと思っていました。

お待たせしました。用賀中学校さんは「コーヒー豆の栽培」ですね。SDGs子ども勉強会プロジェクトさんは「ミートフリー導入へのハードル」ってことで、具体的に書いていただいています。用賀中学校、子ども勉強会プロジェクトの順番に少しお話しいただけますか。

○用賀中学校 はい。用賀中学校では、湘南DV防止サポートセンターという企業さんがお話に来てくださってコーヒーの豆を栽培している国の温暖が進んでしまって、コーヒー

豆の栽培ができなくなっているという話を聞きました。そこから、用賀中学校では、見えるか分からないんですけど、このようにコーヒー豆を栽培することを始めました。ボードには「コーヒー豆の栽培」って書いたんですけど、そのように話を聞いて実際に行動に移すことって難しいと思うんですけど、1人1人何かすることはできなくても、でも学校という組織の中で、企業さんから話を聞いてそれを受けて何か行動するってことは、とても重要であると思いました。

○飯田 具体的な取組みの内容御紹介いただきました。ありがとうございます。

お待たせしました。子ども勉強会プロジェクトの皆さんも「ミートフリー導入へのハードル」と言うことで、補足説明いただけますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 僕たちは、さっき言ったように、区とかに陳情に行くんですけど、最初ミートフリーの重要性の話とかして、いざ導入って話になるとやっぱり、金銭的な面とか食料の衛生的な面とかもあるので、なかなか導入まではいかないんですよ。導入っていう目標を達成するには実現の計画にもっと具体性を持たせないといけないなというのを痛感しました。

○飯田 ちなみに、難しさというのは、特にどの辺りで難しさを感じますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト そうですね。ミートフリーは、例えば、その区の公立の中学校に出してもらってという話になるんですけど、そこの小学校の栄養士の人と話をしないといけないとか事務的なところが増えていくので、なかなか即決、即断とはいなくて時間が掛かったり、やっぱり途中で無理といった話も結構あるので、そういうところが難しいですね。

○飯田 その中でも、いろんな自治体にアプローチされているじゃないですか。それでも変えたいとか、めげずにやっついこうというモチベーションってどの辺りにあるんですかね。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト マルコメさんにいろいろ支援してもらっているのでやっついかなきゃいけないっていうのがあったり、やっぱりそういう根本には地球温暖化ということに対して危機意識っていうのがあるのかなと思います。

○飯田 ありがとうございます。6団体の皆さんに御紹介いただきました。

改めて、若者って一口に言っても、いろいろな世代があるよねっていうこととか、帆井さんの言葉にもありましたけど、本当に、この2、3年で意識とか変わってきていて、若者の中でもどんどんバトンが渡されている感じがあって、すごい心強いなと思いながら

聞いていました。あとは、やっぱり大人とか上の世代とか外と関わる中で難しさがあつ、大きな目標を達成するためにはうまく配慮しながらというか、お互いに尊重しながらウィンウィンにしていくことって重要だよねっていうのは改めて気づかされました。

だんだん時間が残すところ短くなってきてしまったので、最後に1問お聞きして、各団体一言ずつ御紹介いただいて閉めていきたいと思います。今日の御発表と他の団体の発表を聞いて、今後取り組みたいこととか、挑戦してみたいこととか、あるいはきっと参加者の中には、同じ世代の方もいれば、大人とか世田谷区の方とかもいると思うので、大人とかに向けて発信したいこととか、こうして欲しいっていう要望とかなんでも大丈夫です。今後に向けて何か一言伝えたいメッセージがあれば、フリップに書いていただいて、一言ずつ御紹介いただいて、おしまいできればと思います。時間の関係で、最後ですね、各団体30秒から1分以内ぐらいで、一言ずつ回しておしまいできればと思います。SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん、早速ありがとうございます。「仲間を増やす」。後で補足説明いただくとありがたいです。

皆さん考えていただいている間に、御感想をいただいています。相手への配慮というところで、なるほどなと思いました。SDGsって結局は相手、地球への配慮であり、そこに実感として気づいたのは実際の活動として勉強になったでしょうね。大人世代の方から千歳中学校の皆様へのコメントかと思います。ありがとうございます。あと、もうひと方ですね、コメントいただいております。どの学校どの団体さんも、楽しみながらできることをしながらも、少しずつ周りを巻き込んでコラボされて活動されているところがすごいなと思いました。人に伝えたり協力して活動することは大事ですよ。すばらしい発表ありがとうございます。きっと今日の発表も、誰かしら相手を変える一歩になってるんじゃないかなと改めて実感しているところです。

Green Sophiaさん「学生の意識向上」と書いていただいていますね。東京都市大学さんは「OBOGとの懇談会 ISO全体の交流ができる企画 対面活動」書いていただいています。用賀中学校の今市さん「飢餓・貧困について考える」ですね。今回、順番的には、最初に戻って発表順でお話しいただければなと思いますので、用賀中学校さん、千歳中学校さん、子ども勉強会プロジェクトさん、環境プロジェクトさん、ISO学生委員会さん、Green Sophiaさんの順番で、30秒から1分ぐらいでお話しいただくとありがたいです。千歳中学校さんホワイトボードに書いていただいていますね「主体性」。環境プ

プロジェクトさんは「実践的な影響を与えられるようになりたい」ということで、ありがとうございます。

そうしましたら、6団体出揃ったところで、用賀中学校の今市さんから順番に補足説明いただければと思います。今市さん、よろしくお願いします。

○用賀中学校 はい。私は、このホワイトボードに書いてあることがすべてなんですけど。用賀中学校もそうですし、その後にみなさんの発表いただいたのを聞いていて、飢餓とか貧困がおまけ感というか、具体的にこうしたらこうなるみたいなものが、飢餓や貧困って少ないのではないかなと思いました。用賀中学校のある日の全校朝会で、校長先生が日本はSDGsの検索量が世界で1位で2位以降は発展途上国が多いとお話しされていました。アメリカも34位で、基本的には発展途上国が多い中で日本は1位だというふうに言っていて、それでも日本はSDGsの後につく文字っていうのが環境だったりとか、例えば、陸の豊かさとか海の豊かさということが多くて、飢餓や貧困について検索している人は発展途上国の方が多かったみたいです。それを聞いて日本全体でも飢餓とか貧困について困っている人は少ないし、我々は給食が出たりとか朝昼晩と美味しいご飯が食べられていますが発展途上国では食べられなかったりとか、身近じゃないものに目を向けるのってすごく難しいなというのを皆さんの話を聞いて思いました。なので、飢餓や貧困について、何か特別な活動をするのができないにせよ、考えること調べることで、こんなちっちゃいことも飢餓とか貧困につながるのではないかというふうに考えることが重要なのではないかと思いました。以上です。

○飯田 ありがとうございます。続いて、千歳中学校さんお願いいたします。

○千歳中学校 今回、参加した活動を活かして、自分が主体的に、いろんな活動に参加できるようにしていきたいです。終わります。

○飯田 ありがとうございます。簡潔に主体性ってことで、めちゃくちゃ大切ですよね。千歳中学校の皆さんありがとうございました。では、SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん「仲間を増やす」その心をお願いします。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 私たちは、実際このような発信の場をいただいたり、企業さんと連携させていただいたりしてる訳なんですけど、今回に限らず、例えば学校とか近所の人とか身近な人とこれからも継続して連携して活動していきたいです。私たちの活動に興味を持ってくださるのはとても嬉しいことなんですけど、それだけでなく、実際に行動して、またSDGsを広げてくれるそんな仲間を増やしていきたいという心を含め

て書きました。今日のフォーラムのような交流の場で、出会った参加者の方々やパネリストの方々を大切にして、協力しながら、今、問題になっている地球規模の課題に向き合っていきたいと考えています。子ども勉強会プロジェクトからは以上です。

○飯田 ありがとうございます。そうですね。では、続いて環境プロジェクトの皆さんよろしく願いいたします。

○慶應義塾湘南藤沢高等部 はい。私たちは、「実践的な影響を与えられるようになりたい」と考えました。私たちの発表でも説明したんですけど意識喚起を促すような情報の発信だったり企業さんと連携してポスターの掲示とかしてるんですけど、今日の話も聞いてもっと実践的に直接影響を与えられるような活動がしたいなって考えて、意識喚起もすごい重要だと思うんですけど、直接、例えばスタバの例でしたら、お客さんと直接関わって、もっとスタバとお客さんの関係を変えていくとか直接行動を変えられるようなプロジェクトとかそのような活動ができていったらいいなと思いました。

○飯田 ありがとうございます。では、続いて東京都市大学 I S O 学生委員会の皆さんよろしく願いいたします。

○東京都市大学 はい。私たちは、この3つを掲げています。この3つの意図としては、I S O 全体を活性化したいなという意図があります。こちらを挙げた理由としては、コロナの影響でオンラインでのやり取りが増えてしまったことで、積極的に部会間や学年間のつながりというのを作れる場がほとんどなくなってしまっていて、その影響もあって結構流れで受動的に学生たちが取組みに参加しているっていう状況があります。なので、そういう人たちを、1人1人個人個人を活発化、活性化していきたいなっていうふうな思いがあって、こちらを掲げています。

○飯田 ありがとうございます。お待たせしました。最後、Green Sophia さんよろしく願いします。

○Green Sophia はい。私たちが今後、取り組んでいきたいのは「学生の意識向上」っていったところになります。上智大学では、数年前に、再生可能エネルギー100%に電力を切り替えていて、最近では給水スポットを増やしてマイボトルを持参するよう呼びかけたりとか、お昼ごはんのときにキッチンカーが来るんですけど、そこでマイランチボックスで提供可能にする取組みをはじめていたりですとか、かなり環境への取組みが推進されている状況にはあるんですね。ただ、そこに学生が追いついていないというのが少し現状として感じられるので、ありがたいことに Green Sophia の学内での認知度も少しずつ上

がってきているので、そこを活用しながら学生の意識向上に取り組んでいけたらいいなと思っています。以上です。

○飯田 ありがとうございます。6団体の皆さん、発表からパネルディスカッションまでお付き合いいただきありがとうございました。本当は、もうちょっと深掘りして聞きたいところなんですけど、そろそろ時間なのでクロージングの方向に進めたいと思います。

今回ですね、大きな全体のテーマとしては、「1人の100歩よりも100人の1歩」ということで進めていきました。パネラーの皆さん、そして参加者の皆さんいかがでしたでしょうか。

改めて、僕自身も一緒に参加させていただいて、そうだなと思うところが大きかったです。あとプラスちょっと言い換えるならば、もしかしたら早く行くなら1人で行った方が1団体で行った方がいいかもしれないけど、遠くに行くならきっと100人で、100団体で行く必要があるのかなっていうのも感じました。SDGsや気候変動みたいな大きなテーマに立ち向かうときって、早く行くなら1人でやっちゃった方が効率いいかもしれないけど、やっぱりすごい大きな課題に行くためには団体内で議論した上で進めていかなきゃいけないし、きっとここにいる団体同士もつながっていかなきゃいけないし、若者と他の世代とかともつながっていかなければ立ち向かっていけない問題なのかなというのを改めて感じて、きっと今日ここに登壇していただいている皆さんは、その鍵になるというか、原動力になる皆さんになのかなと思うので、ぜひ他団体とか他の世代、上の世代を巻き込みながら、活動していただけるとすごく嬉しいなと、心強いなと思って伺っていました。今日御参加いただいたパネラーの皆さんもここでつながっていただければ嬉しいですし、御視聴いただいた皆さんも今日をきっかけに何か一步を踏み出していただけたらすごく嬉しいなと思っています。今回、第2回の若者フォーラムだったんですけど、またきっと第3回があることを信じてですね、何らかの形でまた第3回のフォーラムでよりブラッシュアップして1歩進んだ形でお会いできることをすごく楽しみにしています。

では、改めてなんですけども、御発表いただいた、そしてパネルディスカッションに御参加いただいた皆さんありがとうございました。皆さん、大きな拍手をお願いいたします。これをもちまして、パネルディスカッションのパートを終了させていただきたいと思っています。

司会の遠藤さんに戻したいと思います。よろしく願いいたします。

○司会 飯田さん、パネリストの皆さん、すてきなプレゼンテーションありがとうございました。それでは最後となりますが、世田谷区環境政策部長より、本フォーラムの講評をいただきたいと思います。世田谷区環境政策部長の清水さん、よろしく願いいたします。

○清水環境政策部長 皆様、こんにちは。環境政策部長の清水でございます。本日は、お忙しい中6団体の皆様には、すばらしい発表、意見交換をありがとうございました。また、多くの皆様御視聴いただきありがとうございます。

今日、お話を聞いた中で講評ということですが、1団体1団体への講評ということではなく、全体を通じて少しお話しさせていただきます。全体を通じて大きく5つほど、こういうことが大事なのかなというふうに思いました。

1つは、まず調べることを知ることから始まるということで、最初にお話のあった環境サポーターの方の出前授業の話それから区の取組み以外にも各団体で出前授業に取り組んでいるって事を今日知りました。そういった知るところから、はじまるということが1点目。

2点目は、視点を変えることが大事、身の回りのことから世界のこと先ほど貧困の話とか飢餓の話もありましたけれども活動したり学んだりすることで視点が広がる、逆に世界のことから興味を持って自分の身近な問題にフォーカスを変えていく。その行ったり来たりが大事だなんてふうに思っております。

3点目は、学びで終わらせない行動することが大事。これは、皆さんおっしゃってました。そのときに、少しずつでもいい、それからやりたいことからでいい、あるいは楽しくゆるくでいいというのがとても若者らしいなというか、気軽に始めようということを強いメッセージと思いました。用賀中や千歳中の皆さんの取組みですとか、Green Sophiaさんの楽しくゆるくというのがとても印象的でした。また、東京都市大学さんも部会などで幅広く色々な取組みをしてつながりを作っているというところも、大変すばらしいなと思いました。

それから、4つ目が、見える化する、データ化する、それによってやる気が継続する。記録をする、集める、減らすと、そういったものが見えるようにして実感して、また先に進んでいくっていうのが印象的でした。例えば、用賀中の取組みで残菜がゼロになったというようなお話もございました。

最後5つ目が、若者や学生の取組みというのは本当に大人を刺激します。私も、例えばグレッタトゥーンベリさんの映画を見たり、ニューヨークのプラスチックストーリーの映画をみたり、あるいは今日の皆さんの取組み、実は昨年も若者環境フォーラムを拝聴しておりましたけれども、非常に刺激を受けます。大人がこのままじゃまずいなって本当に思いますので、ぜひ皆さんの活動を発信していただきたいですし、企業や自治体とどんどん連携していただいて広く発信し、それから後輩に伝えるというお話もありました。ぜひ後輩にも伝えていって欲しいと思います。

今回、多摩美術大学さんのマクドナルドのトレイの御紹介ありましたけれども、ぜひ皆さんにも投票いただければと思います。また、SDGs子ども勉強会プロジェクト、小学校から大学生まで幅広くつながったり、あと慶應義塾大学付属の環境プロジェクトの取組みも、本当に幅広く発信して素晴らしいなと思いました。

最後、継続して粘り強くやっていくってということが大事なのかなと思います。導入へのハードルがあるというお話もありましたが、粘り強く働きかけていくことで、だんだん皆の意識が変わっていくというふうに思います。

本日司会を務めていただいた遠藤さんありがとうございました。また、若者たちをリードしていただいた飯田さん、本当にありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。

区の方では、地球温暖化対策の地域推進計画というものを今、改定しております、来年3月改定予定です。計画は作って終わりではありませんので、引き続き、区の取組みもどんどん進めていきます。また、子どもや若者の皆さんの声、ぜひ聞きながら政策に反映していきたいと考えておりますので、来年も、ぜひ実施していきたいと思っております。本日は、長時間にわたりありがとうございました。

○司会 清水様ありがとうございました。

最後に、皆さんにアンケートのお願いをさせていただきます。アンケートは、今画面に出ている2次元コードを読み取っていただくか、チャットのURLから御参加いただけます。また、フォーラム終了後にお送りするメールにもURLを載せていますので、そちらからも入力可能です。今後の若者フォーラムをより良いものにしていくべく、ぜひ率直な御意見御感想をお願いいたします。

また、話題提供2番目で、多摩美術大学、マクドナルド、世田谷区の三者連携の取組みとして御紹介したトレイマットコンテストについて、本日よりオンライン投票がスター

トしています。フォーラム終了後にお送りするメールにオンライン投票のサイトURLを載せていますので、ぜひ御参加ください。投票は、11月6日まで受け付けています。

では、登壇者の皆様、最後に顔出しをお願いいたします。これにて「若者環境フォーラム 2022」は終了となります。本日は、御参加、御視聴いただき、誠にありがとうございました。